



安保理ブリーフィング会合
における武井俊輔外務副大臣ステートメント
(2023年7月18日)

安保理で AI を取り上げるという議長(英国)のイニシアチブを称賛します。今回の会合は、この問題に関する今後の世界的な議論の良い始まりとなるでしょう。また、事務総長やブリーファアの皆様にも感謝いたします。

AI は世界を変えました。AI は人間の生活を一変させました。AI のスピード、ポテンシャル及びリスクは、我々の想像や国境をはるかに超えています。

我々はこの歴史的な岐路に試されているのです。我々は AI を制御する自制心を持つことができるのでしょうか？

私の政治信条は、「心配するな、工夫せよ。」です。私は、この課題に取り組む鍵は2つあると考えています。それは、「人間中心の AI」と「信頼できる AI」です。人類は、人間の可能性を高めるために、AI をコントロールすることが可能であり、また、そうすべきであって、その逆ではありません。この2点について、説明いたします。

第一に、「人間中心の AI」についてです。AI の発展は、我々の民主的価値や基本的人権に則したものでなければなりません。AI が作り出す偽情報や誤情報は、人々に危害を加え、紛争をエスカレートさせる可能性があります。AI は支配者のための道具になってはならず、法の支配の下に置かれるべきです。

AI の軍事利用はその一例です。責任を伴い、透明性を持ち、国際法に基づいたものでなければなりません。日本は、特定通常兵器使用禁止制限条約(CCW)における自律型致死兵器システム(LAWS)に関する国際的なルール作りのプロセスに引き続き貢献していきます。

第二に、「信頼できる AI 」についてです。ルール作りのプロセスに幅広いステークホルダーが参加することで、AI はより信頼できるものになるでしょう。私は、国連の持つ招集力によって変化をもたらし、世界中の英知を結集することができると思っています。

信頼できる AI を実現するためには、AI の悪用に関する議論を避けて通ることはできません。先月、日本は UNOCT(国際テロ対策オフィス)及び UNICRI(国連地域間犯罪司法研究所)とのサイドイベントを主催し、テロリストによる AI の悪用に関する国連での議論を主導しました。

日本はまた、本年、G7 広島 AI プロセスを立ち上げ、生成 AI に関する世界的な議論をリードしていることを誇りに思います。

安保理、そして国連は、AI の活用を通じて、ツールキットをアップデートすることができます。

まず、AI の積極的活用によって、安保理の意思決定と作業方法の効率性と透明性をどのように高めることができるか検討すべきです。

また、仲介や平和構築の活動に AI を活用する国連事務局の取組を歓迎します。

さらに、AI を活用した紛争の早期警戒システム、制裁履行の監視、偽情報への対策によって、国連をより効率的かつ効果的に機能させることができるでしょう。

最後に、国連内外の AI に関する議論に積極的に我々は参加する用意があることを表明し、結びとさせていただきます。

(了)